

主 題：救いの証人

聖書箇所：ルカの福音書 24章46-49節

主は何のためにあなたを救われたのでしょうか？主はいったい何のためにあなたを永遠の滅びから救い出されたのでしょうか？そのように質問されたらあなたは何かとお答になりますか？ある人は主の栄光を現わすためと言うでしょう。確かに、その通りです。ある人は主を崇めるためと言うでしょう。その通りです。そこで私たちが考えなければいけないことは、では、どうすれば私たちはもっと主に栄光を現わすことができるようになるのかということです。それは私たちが主に似た者に変えられ続けていくことによって栄光を現わしていくことができます。私たちがイエスに似た者に変えられていけばいくほど、主の栄光は現わされていきます。その働きは私たちがイエスによって救われたそのときから始まりました。また同時に、主がお喜びになることを選択していくことによって神の栄光が現わされていきます。当然のことです。私たちが正しい選択をすることによって神が喜ばれ、そして、神の栄光が現わされていくのです。でも、今日、私たちがもう一つ考えてみたいこと、思い出していただきたいことは、人類の歴史を振り返ってみると、主があることを約束され、主があるものを備えられたということです。

そのことについてごいっしょに考えたいのです。今から説明します。皆さんも聖書をよく読んでおられますから、このようなことはご存じでしょう。「天で大きな喜びがわき起こる」ことです。それはどういうときですか？聖書のみことばが私たちに教えるのは「…ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。」（ルカ15：7）、同じルカ15：10「あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちに喜びがわき起こるのです。」です。ということは、神はひとりの罪人が悔い改めることを喜ばれるということです。そして、無数の天使たちがそのことを喜ぶのです。確かに、私たちは主の栄光のために生きます。主を喜ばせるために生きます。しかし、このようにみことばを見ると、ひとりの罪人が悔い改めることを主が喜ばれるとするなら、私たちはそのためにあらゆることをこの目的のために為す必要があると思いませんか？

私たちが福音を伝えることによって、ひとりの罪人が救いに与るなら神の栄光が現われるのです。ですから、みことばは私たちに、神によって救われた私たちの責任、務めを教えているのです。今日のテキスト、特に、ルカの福音書24：48を見ると「あなたがたは、これらのことの証人です。」とあります。

◎「あなたは証人」である 48節

主イエス・キリストは救いをいただいた私たちに対して「あなたは証人だ」と言われたのです。なぜ、そのように言われたのでしょうか？そこに大切な務めがあるからです。大命令と言われる命令を思い出してください。大切な命令として、主が一人ひとりの信仰者に与えられた命令です。マタイ28：19a「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」、どのようにして弟子とするのか？彼らに救いのメッセージ、福音のメッセージを語ることによって彼らが信仰に至り、そして、彼らを訓練していきなさいと命じたのです。これが大命令です。

マルコの福音書を見ると、もう少しこの説明を分かり易く記しています。マルコ16：15「それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」と。すべてはここから始まるのです。「あなたはわたしの証人である」と言われるのです。そして、教会の歴史を振り返ってみると、確かに、イエスとともに過ごした使徒たちは証人として生きました。マルコ16：20には「そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。」とあります。ですから、彼らは神から「あなたがたは証人だ。自分たちが見て来たこと、聞いて来たこと、その真理を語り続けていきなさい。」と言われたとき、彼らは「わかりました。」と言って出て行ってそれを伝え続けたのです。その歴史、その記録が「使徒の働き」にはたくさん記されています。

2：32「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」

3：15「いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」

5：32「私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」

10：39、41「私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムとで行われたすべてのことの証人です。

人はこの方を木にかけて殺しました。」「しかし、それはすべての人々にではなく、神によって

前もって選ばれた証人である私たちにです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられて後、ごいっしょに食事をしました。」

13 : 31 「イエスは幾日にもわたり、ご自分といっしょにガリラヤからエルサレムに上った人たちに、現れました。きょう、その人たちがこの民に対してイエスの証人となっています。」

彼らは自分たちの見たことを人々に証したのです。イエス・キリストは十字架で死に、三日後によみがえって来た、私たちはそれを目撃した。私たちはイエスとともに食事をした。イエスと話をした。確かに、イエス・キリストはその死からよみがえられたと、こうして彼らは証人として生きたのです。

そして、主はその命令を彼らだけでなく、約2000年後の私たちにも与えているのです。「あなたは証人である」と。ある人はこのように言うかもしれません。「私はイエス・キリストの十字架を見ていないし、イエス・キリストの復活もこの目で見ていません。」と。確かに、私たちのうちのだれ一人として、イエス・キリストが十字架に架かって血を流しいのちを落とされたその様子を見た人はいません。だれ一人、三日後にイエス・キリストが肉体をもって完全にその死からよみがえって来たその光景を見た者はいません。でも、私たちは証人なのです。そのことに関して、ペテロはこのように言います。I ペテロ 1 : 8, 9 「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、榮えに満ちた喜びにおどっています。:9 これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。」と。

ペテロが言ったことは次の通りです。確かに、あなたたちは十字架で私たちの身代わりとなつていのちを落とされたイエスを見ていないでしょう。あなたたちはイエス・キリストが三日後によみがえって来たその光景を見ていないでしょう。でも、あなたたちが証できることがある、あなたたちが人々に伝えることができることがある。それはあなたたちを神が救ってくださったという事実ですと。ペテロは「ことばに尽くすことのできない、榮えに満ちた喜びにおどっています。」と言いました。私たちは残念ながら上手く説明することができないことが多いです。しかし、罪が赦されたということは、私たちにとって最高の喜びではないですか？私たちは死んでも生きるというこの永遠の約束を頂いた者として、その時を楽しみに生きているのです。日々、私たちのからだは衰えていきます。でも、主が備えてくださった住まいがあることを知っているのです。天国が約束されていることを知っているのです。そして、主がそこに私たちを確実に迎え入れてくださることを知っているのです。だから、私たちは今この地上にあって、喜びをもって希望をもって生きているのです。人は言うかもしれません。「ただ、あなたがそう思い込んでいるだけでしょ？」と。いいえ、私たちは十字架で死によみがえったイエス・キリストを信じることによって、聖書が教えるように私たちの内が変えられたこと、罪が赦されて生まれ変わったことを私たちは体験したのです。だから、私たちの内に神しか与えることのできない喜びと平安を持って生きることができているのです。それが私たちのメッセージなのです。希望のないこの世界にあって、そのような人々の中であって、私たちはイエス・キリストにある希望を伝えるのです。イエス・キリストによって、信じる者たちすべてが生まれ変わるというメッセージを私たちは伝えていくのです。だから、私たちは「証人」だと言うのです。

「証人」として私たちが生きていくというこの務めに関して、主イエス・キリストは大切なことを私たちに教えてくださいました。このメッセージを伝えるに当たって、救われた者たちひとり一人の責任、そして、神ご自身の責任とその役割を私たちは正しく知ることが必要です。そして、願わくは、このみことばを学び終わった時に、先に救われた私たちひとり一人は「そのように心新たに歩いていきたい。主の証人として、今日から私は新たな思いをもって主を証していきたい。」と、そのような願いと新たな決心をもって、今日から信仰者であるあなたが歩んでくださることを願います。そして、この中にまだイエス・キリストを信じていない方、この希望をご自分のものとしてされていない方がおられるなら、今日、あなたがその希望、その救いをご自分のものとして受け取ってくださることを心から願います。みことばをごいっしょに見ていきましょう。今日のテキストを通して私たちは二つのことを教えられます。一つは「人間の働き」、もう一つは「神の働き」があるということです。

☆命題 : 「罪人の救いにおける働き」について

A. 人の働き : 「罪の赦しを伝えるメッセージ」を語る 47節, 46節

47節には「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」とあります。「エルサレムから始まってあらゆる国の人々に」あるメッセージが宣べ伝えられるということです。どんなメッセージなのか？いったい、だれが伝えるのか？それは「罪の赦しを伝えるメッセージ」です。伝えるメッセージとは「あなたの罪が赦される」というメッセージです。あなたがどれ程大きな罪を犯してしようと、どれだけ神に逆らい続けていようと、あなたの罪は赦される

というメッセージを私たちは語るのです。その務めを主から頂いています。罪からの救いのメッセージです。永遠の地獄からの救いのメッセージです。私たちはこの救いのメッセージを語る必要があります。というのは、私たちが語らなければ人々は聞くことがないからです。「しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じるができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。:15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」(ローマ10:14, 15)とパウロが言っています。救いに与るためにはこのメッセージを聞かなければいけない、彼らが聞くためにはだれかが伝えなければならないのです。ここにおられる信仰者の皆さんは、必ず、だれかからこの福音のメッセージを聞いたのです。だれかが時間を取って話してくれたのです。そして、私たちは神の恵みによってこの救いに与ったのです。続くローマ10:17に「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」とある通りです。だから、先に救われた私たちが出て行ってメッセージを語るのです。罪の赦しを伝えるメッセージを、永遠のさばきからの救いのメッセージを語り続けていくのです。救われたあなたが「証人」というのはそういうことです。救われた者としてこの「救いのメッセージ」を語っていきなさいと言うのです。

まず先に、救われた皆さんに話します。というのは、約2000年近いこの教会の歴史にあって、いろいろな救いのメッセージが語られて来たからです。「こうすれば救われる。こうすれば罪の赦しを得ることができる。」と。残念ながら、そのすべてのメッセージが正しい訳ではありません。どうすればいいのか？私たちがしなければいけないことは、神が私たちに何を教えてくださったのかと聖書に戻ることです。これが神のおことばであると、聖書の教えることを私たちは実践して行くのです。ですから、私たちの語るべきメッセージ、それは確かに救いのメッセージですが、その救いのメッセージの内容について聖書はしっかり私たちに教えてくれているのです。

1. 悔い改めのメッセージ 47節

47節に「その名によって、罪の赦しを得させる」とあります。罪の赦しを頂くためには何が必要なのか？みことばは教えています。その後「罪の赦しを得させる悔い改めが」とあります。ですから、私たちが語るべき救いのメッセージの内容は「悔い改め」のメッセージなのです。みことばがそのように、悔い改めによって罪の赦しを得ることができると言っているからです。多くの人々は悔い改めを語ることに躊躇を覚えます。なぜなら、悔い改めを命じることは、行ないを命じているかのように思うからです。「信じる信仰だけで十分だ」と言いながら人々はいろいろなことを言う。けれども、私たちは神が何と言われているのかを見なければいけません。そうすると、みことばを見る限り、罪の赦しを得るためには悔い改めが必要だと分かります。だから、悔い改めのメッセージを語りなさいというのです。

ここでしばらく皆さんに説明したいことは、そのメッセージこそが使徒たちが語ったメッセージであるということ、そして同時に、「悔い改め」は行ないを強要することではないということです。

私たちは「使徒の働き」を見ると、教会がどのように成長していったのか、その様子を見ることができます。ペテロはこのようなメッセージを語っています。使徒の働き3:19「そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」と、確かに、ペテロはこのようなメッセージを語っています。また、8章にはシモンという一人の人物が罪を犯した時の様子が記されています。ペテロはそのシモンに対してこのように言っています。8:22「だから、この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。あるいは、心に抱いた思いが赦されるかもしれません。」と。このような初代教会の様子を見て、ある人々は「聴衆はユダヤ人でしょうか？ユダヤ人に悔い改めなさいと語ったのでしょうか。」と言います。果たして、そうだったのでしょうか？

使徒の働き17章に進んでください。パウロはギリシャの町アテネに出かけました。異邦人たちの町です。もちろん、ユダヤ人たちもいました。アテネの町に行った時にそこが偶像でいっぱいだったのでパウロは憤りを覚えます。そして、パウロはアテネの町にあってこのようなメッセージを人々に語りました。17:30に記されています。「神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、…」つまり、偶像を崇拜し神に背を向け続けるという無知の時代です。「今は、どこででもすべての人に悔い改めを命じておられます。」と。また、もう少し進んで20章、パウロはミレトにいました。そこからエペソに使いを送って教会の長老たちを呼び集めました。その長老たちに対してパウロが言ったことは、20-21節「益になることは、少しもためらわず、あなたがたに知らせました。人々の前でも、家々でも、あなたがたを教え、:21 ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。ることは、少しもためらわず、あなたがたの知らせました。」です。こうして見ると、

パウロは異邦人であろうとユダヤ人であろうとだれであろうと同じメッセージを語ったのです。「罪を悔い改めなさい」と。もう一箇所、26：20にはアグリッパ王に対するパウロの弁明が記されています。「ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと宣べ伝えて来たのです。」と。

聖書のみことばは私たちに明確に、彼らがどのようなメッセージを語ったのか、相手がユダヤ人であろうと異邦人であろうと、だれであろうと同じメッセージを語り続けたことを教えています。彼らが語ったメッセージは「悔い改めのメッセージ」でした。そして、先程も話したように、悔い改めを命じることは行ないを命じることで、それは恵みに反することだと言う人たちがいますが、果たしてそうなのでしょう？使徒の働き11章をご覧ください。キリスト教会に大変なことが起こったのです。異邦人が救われるということが起こって来たのです。ユダヤ人が救われた時に、彼らが本当に救われたその証拠として起こったいろいろな出来事が、異邦人が信じた時にも同じように起こったのです。それを見た人々は非常に困惑しました。「何が起きているのだろうか？」と、それで見なが集まったのです。様々な話がなされて、そのときに、人々はコルネリオという人物が信仰に至った時にこのようなことが起こったと聞きました。11：18「人々はこれを聞いて沈黙し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえた。」。使徒たちが告白したことは、悔い改めも実は神からの贈りものだという事です。神が悔い改めをお与えになったと言ったのです。私たちは一生懸命悔い改めを行なうことによって神のあわれみを請うではありません。実は、神が私たちのうちに働き、私たちが本当に心から神の前に罪を悔い改めるようにと神ご自身が導かれるのです。実は、悔い改めも神のわざだと言うのです。ローマ2：4に「それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。」とあります。Ⅱテモテ2：25にも「反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真理を悟らせてくださるでしょう。」とあります。

さて、このようにみことばを順番に見て来ましたが、神が働いて、神が人々に悔い改めを与えるのです。神は「悔い改めのメッセージを語りなさい」と言われます。そして、人がそのメッセージを聞いて悔い改めるのは、神がその人のうちに為されるみわざだと言うのです。私たちの語るべきメッセージは「悔い改めのメッセージ」なのです。人間の問題がどこにあるのか？なぜ、神が罪人に対して怒りを持っておられるのか？パウロはローマ人への手紙2：5でこのように言っています。「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」と。パウロは、なぜ、神があなたに対して怒りを持っているのか、その理由を説明してくれました。そうなのです。神はあなたに対して怒っておられます。それはあなたがいつまで経っても神に対して心を開こうとしないからです。あなたが神に対していつまでも心を頑なにしているからです。いつまで経っても、あなたの間違った生き方を改めて正しい生き方をしようとしなさい、悔い改めをしないからだと言うのです。だから、神は怒っておられるのです。そして、神は「あなたの罪をさばく」と警告しておられると言うのです。

結論

皆さん、このテキストは私たちに救われたあなたには「証人」としての務めがあると言いました。証人とは出て行ってメッセージを語る事です。神があなたのために為されたその救いのみわざを人々に語りなさい、あなたが救われたように、すべての人々にも救いがあるのだということを伝えていきなさいと言います。しかし、それを為す時に私たちは、人々に対して「あなたは罪を悔い改めなければならない」ということを語らなければならないと言うのです。生き方をそのままにして、罪をそのままにしてイエスを信じたらいよいよ人間が考え出した救いのメッセージです。なぜなら、神によって造られた私たちは、造ってくださった神に対して責任があることが明白だからです。造ってくださった神は目的をもって私たちを造ってくださったのですから、造られた私たちはその方に対して責任があります。この創造主なる神を心から愛して、この方に従って行くことです。でも、私たちの選択はそれとは真逆な生き方をしてきたのです。創造主なる神を愛するよりも自分を愛して生きて来ました。創造主なる神に従うよりも、自分の考えや思いに、また、自らの欲に従って私たちは生きて来ました。先に救われたあなたもそうだし、まだこのキリストの救いを拒んでいるあなたもそうです。

皆さん、イエス・キリストが十字架で死んだという事実があります。そして、十字架で死なれたイエスは「わたしはこの十字架の刑をあなたの身代わりに受けている」と言われました。それはあなたの罪を赦すために神がしてくださった恵みの行為です。あなたの罪が赦されて、あなたが永遠のさばきではなく、地獄ではなく、永遠のいのちに、天国に至るように神はその救いを備えてくださったのです。そ

れでもなおあなたはその主を拒み続けている。その主のすばらしい救いをあなたは自らの意志で拒み続けている。道理で神はお怒りのはずです。だから、神はあなたに悔い改めを命じているのです。あなたは間違っている、その間違いを止めて正しく歩みなさいと言われます。あなたを造った神に対して間違っただけで来たあなたが、その罪を止めて、そこから離れて、あなたを造られた神が喜ばれるように、神の前に正しく歩み始めていきなさいと言うのです。

昔、まだこの教育館がない時に、ある一人の男の子がお母さんに連れられて教会に来ました。お母さんに促されてその子がこう言ったのです。「僕は石を投げてガラスを割りました。もうしませんから許してください。」と。許されました。でも、どうでしょう？その子がまだ石を手にしながらかも「またやるぞ！」という顔をして「ごめんなさい」と言ったとしたら、それが本当に心からのものでないことが私たちは分かります。同時に、本当に心からそれが悪かったと気付いたら、もうそれはしたくないと思うのが普通ではないですか？創造主なる神に逆らって来た、間違っただけで生きて来たことに気付いたなら、そこから離れたいと思うのは当然でしょう。そして、自分を造ってくださった神に従って生きたいと願うことは当然ではないですか？だから、私たちは自分がこの神の前に間違っただけで来たことに気付いた時に、「神様、私は間違っていました。赦してください。私は、私を造ってくださったあなたに従って行きたいです。あなたの前に正しく歩んでいきたいです。」と、そのように願うことは正しいことであり、それがまさに悔い改めなのです。なぜなら、生き方が180度変わるからです。神の前に間違っていた人が、神の前に正しく歩んでいこうとするのです。このメッセージを語らないで、どうして私たちが救いのメッセージを語っていると言えますか？神の前に間違っただけで来た私たちが、そのことを認めて、神の前に正しくあろうとするのです。

イエス・キリストを信じておられる皆さん、そのことを主が命じておられます。そして、私たちの先輩たちはそのように「悔い改めなさい」というメッセージを語ったのです。私たちもそのメッセージを語り続けていくことです。そして、この中に、まだ悔い改めておられない方がいるなら、今あなたに心からお勧めします。罪を悔い改めて、あなたをお造りになりあなたを愛していらっしゃる神のもとに救いを求めて出て来ることです。主はその瞬間にあなたを救ってくださいます。あなた造りあなたを愛し、あなたのために救いを備えてくださったこの神を、あなたの神と信じてその方に従うことです。その時にあなたは、今私たちが見て来たように生まれ変わります。罪が赦されます。そして、ことばに現わすことのできない喜びをもって生きる者へと神が変えてくださるのです。この救いをあなたが心から受け取ってくださることを心からお勧めします。

さて、私たちが語るべきメッセージとしてイエスが教えてくれたことは「悔い改めのメッセージ」でしたが、もう一つあります。

2. 「イエスによる救いのメッセージ」を語る 46節

46節「こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、」、私たちが語るべきメッセージは「悔い改め」だけでなく、「イエスによる救いのメッセージ」です。主イエスによつての救い、イエスによつて救いがあるという救いのメッセージを語るのです。なぜなら、イエスは約束の救世主だったからです。46節にあるように、キリスト、つまり、メシヤ、メサイヤ、救世主は苦しみを受け三日目に死人の中からよみがえることが預言されていたとイエスはここで言われたのです。ですから、このイエスは神が旧約の時代において預言されていた約束の救世主であると、主ご自身がそのように言われたのです。ですから、ここにあるように、確かに、約束の救世主は苦しみを受けて死なれ、そして、その死から三日目によみがえると、そのことがみことばに記されているのです。

1) 約束の救世主

(1) 救世主の誕生

・「ダビデの父エッサイの、また、ダビデの子孫」

イザヤ11:1-11「:1 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。:2 その上に、【主】の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と【主】を恐れる霊である。:3 この方は【主】を恐れることを喜び、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、:4 正義をもって寄るべのない者をさばき、公正をもって国の貧しい者のために判決を下し、口のむちで国を打ち、くちびるの息で悪者を殺す。:5 正義はその腰の帯となり、真実はその胸の帯となる。:6 狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、小さい子どもがこれを追っていく。:7 雌牛と熊とは共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわら食う。:8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの子に手を伸べる。:9 わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。【主】を知ることが、海をおおう水のように、地を満

たすからである。:10 その日、エッサイの根は、国々の民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のいこう所は栄光に輝く。:11 その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買い取られる。残っている者をアッシリア、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々から買い取られる。」

・ベツレヘムで生まれること

ミカ5：2「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」

・処女マリヤから生まれること

イザヤ7：14「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」

・雌ロバの子に乗って来られる

ゼカリヤ9：9「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろおばに。」

約束の救世主はどの家系に生まれるのかを教えてくださいました。ダビデの家系であると。どこの町で生まれるかも預言されていました。ベツレヘムです。そして、処女マリヤから生まれることが預言されていました。そして、雌ロバの子に乗って来られることも預言されていました。私たちはイエス・キリストが雌ロバの子に乗ってエルサレムに入城した時に、本来なら、気付くはずだったのです。この方が約束の救世主だということ。

(2) 十字架

そして、みことばは確かに、この約束の救世主は十字架で死ぬことを預言しています。イザヤ53：5に「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」とある通りです。「刺し通され、」とは十字架を表わしています。十字架刑が存在する前から、この約束の救世主は十字架で亡くなることを聖書は教えていたのです。その通り、イエスは十字架で死なれました。

(3) 復活

そして、約束の救世主は死んで終わるのではありません。必ず、よみがえることが預言されていました。詩篇16：10「まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。」この救世主はずっと墓の中に留まり続けるのではない、死んで終わりではない、救世主はその死からよみがえって来ると言います。そして、私たちは死からよみがえって来たイエス・キリストを知ることになるのです。

ですから、イエスがこの46節で弟子たちに何を話されたのか？イエスこそが約束の救世主であることを明らかにされたのです。神が預言しておられたように、神が約束されていたように、この世に来られ十字架で死なれ、よみがえられる。そのことをもってご自分がその約束の救世主・キリストであることを明らかにされました。

2) 唯一の救世主

もう一つ、この方は約束の救世主だけでなく、唯一の救世主です。なぜなら、イエス・キリストは宗教を説くため、広めるためにこの世に来られたのではないからです。皆さんに良い教を説いて、皆さんの心を楽にしてあげようと、そのために来られたのではありません。イエス・キリストがこの世に来られた目的はただ一つです。あなたの罪を負って十字架で身代わりとなって死ぬためです。イエス・キリストはご自分のいのちをあなたのために喜んで犠牲にしてくださった。なぜですか？あなたに救いを与えるためです。あなたののろいも、あなたのさばきも、すべてイエス・キリストがその身に負って身代わりになって十字架で死んでくださったのです。それはあなたに救いを与えるためでした。マタイ1：21に「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」とある通りです。

ですから、みことばこう言います。47節「その名によって、」と。このイエス・キリストによってということ。イエスの名前の意味をご存じですか？「イエス」とは「主は救い」という意味です。人間はいろんな名前をつけます。その名前にはいろいろな意味があります。イエスという名前は珍しい名前ではなかった。しかし、このイエスだけが本当にその名前のごとく、罪人をその罪から救ってくださる方です。このイエスによってのみ、信じるすべての人に救いが与えられるのです。使徒はこのように言います。使徒の働き4：12「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」と。人間に与えられた唯一の救い主、

神が備えてくださった唯一の救い主です。そして、この方だけが救い主である証拠をもっておられます。あなたのすべての罪を負って十字架で死んでくださったのはこの方だけです。そして、その死から約束通り肉体を持ってよみがえって来られた方はこの方だけです。だから、この方が私たちをその罪から救ってくださる唯一の救い主であると言うのです。

結論

主イエスは「あなたは証人である」と言われました。ここにおられるイエスを信じているすべての皆さん、あなたは証人です。キリストのこのすばらしい救いの証を為す証人です。今、どのような内容のメッセージを語るべきかを学んで来ました。まとめるとこのようになります。私たちが語るべきメッセージは、「あなたの罪を赦して頂くために、今罪を悔い改めて、神が備えてくださった救い主、主イエスによる救いを受け入れなさい。」です。このメッセージを私たちは語るのです。このメッセージを使徒たちは語り続けて来たのです。このメッセージを神は私たちに託してくださったのです。このメッセージを曲げることなく語り続けていくのです。それがあなたの責任だとみことばは言います。

これが私たち人間の責任です。今度は神の責任に話に移っていきます。

B. 神の働き 49節, 45節

今日の聖書箇所を見ると、45節でも49節でもそのことについて教えています。神の働きについてです。神はメッセージを人々に伝えるあなたのために何をしてくれるのでしょうか？

1. 語る者に力を与える 49節

救いのメッセージを人々に伝えるあなたに神は力をくれると言います。49節に「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高きところから力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」とあります。神はあなたに力を与えてくれるのです。使徒の働き9:22には「しかしサウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。」と書かれています。サウロとはパウロになる前の名前ですが、この人物はますます力を受けてキリストを証したと言います。いったい、その力はどこから来たのでしょうか？約束されたように、神がその力をくださったのです。神の約束は、メッセージを語るあなたに力を与えてくれるというものです。そして、ルカ自身、その力がどんなに凄いものであるかを知っていました。なぜなら、ルカはこの24章の最後の箇所です。神の力についてこのように話し、そして、ルカの福音書1章では神の力がどれ程偉大なものであるかを記しているからです。ザカリヤとその妻エリサベツは歳を経ていましたが、子どもがありませんでした。でも、神から「あなたがたは子どもを宿すのだ」ということを聞いた時に信じることができなかつた。しかし、彼らは確かに男の子を得ました。人間的には不可能と思えることを、それが神のみこころなら神は為されるのです。神は全能の方です。

そして、1章にはもう一人の人物のことが記されています。ご存じの通りマリヤのことです。御使いは彼女に「男の子を産む」と告げます。マリヤは「そんなことは不可能です」と答えます。彼女はまだ処女でした。しかし、神がそのことをお告げになったのです。そして、御使いはこのように言います。

1:37「神にとって不可能なことは一つもありません。」と。つまり、人間的には絶対にできないと思われることも、神ならできる、神には不可能なことは一つもないということです。そのことがルカによって1章に記されているのです。神はどんなことでもおできなる。その神の力を私たちは頂きながらこのメッセージを語っていくことができるとルカは言うのです。当然、ルカはあなたにもそのことをしっかりと知ってもらいたいと願っていることでしょう。

あなたの務めは語ることです。そして、神はあなたを助けてくださる。その助けを仰ぎながら、この福音のメッセージを私たちはこの地上にいる限り語り続けていくのです。どうですか、皆さん？先週一週間、キリストの福音をどなたかにお話しになりましたか？今年になってもう4月を迎えようとしています。だれか一人にでも、あなたは出て行ってイエス・キリストの福音を伝えましたか？みことばが私たちに教えてくれているのは、そのために神があなたを救ってくれたということです。確かに、「私は上手く喋れません」と言います。でも、神はご存じです。だから、神はあなたに力を与えると云ったのです。「私は口下手で…」と、神は知っておられます。そのあなたに力をご下さるのです。大切なことは、私たちひとり一人の信仰者が、この務めのために私は救われたということを感じるのです。そして、神の助けを頂きながらこの働きを忠実に為していくことです。主イエスにお会いするその日まで…。

そして、凄いことは、神は語るあなたに助けをくれるだけでなく、聞く者にも神のみわざが為されるのです。

2. 聞く者に悟りを与える 45節

神ご自身が彼らの心を開いてくださるのです。今日のテキストの45節に「そこで、イエスは、聖書を

悟らせるために彼らの心を開いて、」とあります。実は、このルカの福音書24章にはある出来事が記されています。それは二人の人物がエマオへ向かっていたところです。彼らはその時に起こったいろんな出来事を話していましたが、悲しいことに、彼らと一緒に歩いている人物がだれか彼らはまだ悟ることがなかったのです。そこで24：31にはこのように記されています。「それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。」、つまり、私たちが自分では最高だと思うメッセージを語ったとしても、これだけ上手く語ったならこの人は救われるだろうと思って語ったとしても、私たちの力で人の心を変えることはできないし、人の心を開くこともできない、神がしてくれると言うのです。神が人間の心を開くのです。神があなたの心を開いたのです。そして、あなたをその救いへと導いてくださったのです。

ヨハネの福音書の14章でも、また、16章でもそのことが書かれています。14：26「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」、16：8「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。」、16：13「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。」、神ご自身が働いてそのような働きを為すのです。

信仰者の皆さん、まとめます。

結論 今日、私たちはルカの福音書に記されているイエス・キリストの最後のメッセージを見て来ました。私たちが救われた目的が何だったのか？神はあなたにどのような務めを与えたのか？そのことを見ました。あなたは「証し人」、「証人」だということです。この救いのメッセージを人々に伝え続けていく、それが主があなたを救ってくださった目的です。あなたの責任はそのメッセージを曲げてはいけないということです。「このようなメッセージを語って人が救われるのか？」…、語るのです！！私たちは神が言われたメッセージを語り続けるのです。語るあなたを助けてくれるのは神であり、聞いている人々の心を開いてくれるのも神のわざなのです。しっかりその働きをなさいと言われます。一人でも多くの人たちがこの救いに与るようにと、そのことを願いながら、祈りながらするのです。彼らはこの福音のメッセージを聞かなければいけないのです。こんなにすばらしいメッセージがあるのです。罪が赦されて永遠のいのちをいただく、その道が開かれているのです。そのことを私たちは伝えなければいけません。

最後に、パウロがピリピ人への手紙の中でこのように言っている箇所を見ましょう。2：16「いのちのこぼをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。」。あなたがイエス・キリストの前に立つときに、「わたしがあなたに命じた働きをあなたは忠実に為して来た」と主はあなたを喜んでくださるのです。それは何人を救ったからではありません。キリストの救いのメッセージを忠実に語り続けて来たからです。それを神が喜ばれるのです。どうぞ、そのような働き人として今日から心新たに歩み始めてください。私たちはこんに凄む務めを神から頂いています。神はあなたを使ってくださいます。証人としてしっかりとキリストの福音を語り続けてください。

この中におられる、まだイエス・キリストを信じていない皆さん、神はあなたを招いてくださっています。あなたの罪を赦すと言われます。なぜ、今、その救いを求めて主の前に出て来ないのでしょうか？どうぞ、主に対するあなたの罪を悔い改めて、主が備えてくださったこの救いを頂いてください。あなたは生まれ変わります。あなたは神が約束された罪の赦しを頂くこととなります。今日その救いを、その祝福を頂いてくださることを心から願います。

《考えましょう》

1. 信仰者であるあなたに与えられた務めは何でしょう？
2. あなたの務めを為すために、どうして主の力が必要なのでしょうか？ その理由を挙げてください。
3. どうして主イエスだけが救い主なのでしょう？
4. どうして、悔い改めを伝えることが必要なのでしょうか？